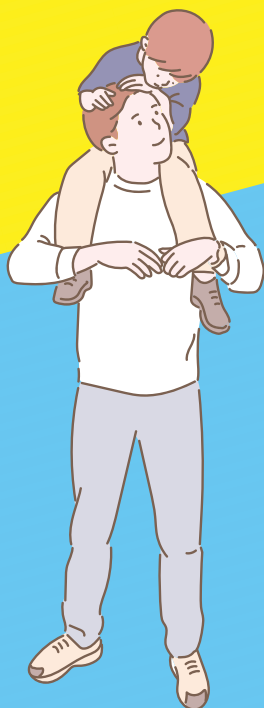


# Dual Career Couple

共働き

## 「共働き」を考える 今と未来の

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）  
第15回東北大学男女共同参画シンポジウム



平成30年

# 12/8<sup>土</sup>

13:00~17:00

会場

翠生ホール  
(青葉山 commons 2階)

主催

男女共同参画委員会



TOHOKU  
UNIVERSITY

## ごあいさつ

開会にあたり、一言ご挨拶いたします。

はじめに、このたび第15回目の東北大学男女共同参画シンポジウムを開催できますことに、深く御礼を申し上げます。

本年創立111周年を迎えた本学は、建学以来「門戸開放」の理念を掲げ、真に実力のある者はそのバックグラウンドに関わらず受け入れてまいりました。1913年には、我が国で初めて女子学生を受け入れるなど、いち早く理念の実現に取り組んできた大学でもあります。

本日のシンポジウムを主催する東北大学男女共同参画委員会は、平成11年6月の「男女共同参画社会基本法」の成立と、平成12年5月の国立大学協会ワーキング・グループ報告「国立大学における男女共同参画を推進するために」を契機として、平成13年4月に本学に設置されました。

以来、この委員会では、男女共同参画推進のための東北大学宣言の策定、本学の男女共同参画にかかる研究や取組を奨励する「沢柳賞」の創設など、本学における男女共同参画意識の醸成、学内保育施設の設置による教職員の仕事と育児・介護の両立支援策の充実などを図ってまいりました。

平成28年度には、こうした取組の促進に向け、文部科学省の「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ(特色型)」に採択されました。「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」と名付けたこの事業では、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備等を推進し、平成33年度までに女性教員比率を19%（平成30年5月時点：12%）に引き上げることを目指しています。

現在実施している具体的な取組としては、優秀な女性研究者が長期に渡り安定かつ自立して研究することができる環境の整備や、上位職への登用などを加速させる「女性教員採用促進事業」、さらには、優れた研究を展開する女性研究者の活躍を讃えることで、研究意欲の一層の増進に繋げ、世界トップリーダーとなることを期待して授与する「紫千代萩賞」などがあります。

一方で、本学における男女共同参画の取組を振り返り、大学が果たすべき役割や推進すべき施策などについて学外の皆様とも議論させていただくために、このシンポジウムを毎年開催しています。今回で第15回目を数えます。

今回は「Dual Career Couple」と題して、今と未来の「共働き」について、若い世代の皆さんの結婚・仕事・家族への夢や不安を話してもらい、現状の壁を破る発想や、今の大人がなすべきことをお集まりの皆様とともに議論したいと考えております。

本日は、来賓としてお茶の水女子大学長 室伏きみ子氏にお越しいただき、ご挨拶を頂戴することにしております。

続いて、今年で5回目となる澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称澤柳記念賞）の受賞者である九州大学研究戦略委員会 教授 上瀧恵里子氏、大阪府立大学理系女子大学院生チームIRISに受賞講演をお願いしております。

さらに、特別講演として東京都議会議員 福島りえこ氏に「民間企業の研究者から東京都議会議員へ～自分なりの社会貢献を模索して～」というタイトルでご講演いただくほか、パネルディスカッションでは「Dual Career Couple」をテーマに、特別講演の福島氏に加え、特定非営利活動法人ファザーリングジャパン東北代表理事 横田智史氏、本学流体科学研究所教授 伊賀由佳氏、本学大学院理学研究科修士2年 森真依子氏、本学経済学部4年 伊佐治祐太氏によって、今後の方向性を探ります。

このように多くの方々にご協力いただき、本日のシンポジウムを開催できることを大変光栄に思います。

最後に、本シンポジウムが、本日お集まりの皆様それぞれの立場で、男女共同参画の推進についてお考えいただく契機になりますとともに、この議論が、本学の研究・教育の発展、ひいてはこれからの男女共同参画社会の推進に大きく寄与することを祈念し、私の挨拶といたします。



東北大学 総長  
大野 英男

平成30年12月8日

# プログラム

## 総合司会

男女共同参画委員会委員 広報・シンポジウムWG 金属材料研究所 教授 淡路 智

## 開会挨拶

東北大学 総長 大野 英男 13:00

## 来賓挨拶

国立大学法人お茶の水女子大学 学長 室伏 きみ子氏 13:05

## 第1部

13:10-14:05

### 第5回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(澤柳記念賞)受賞式及び講演会

#### A賞(本賞)

九州大学研究戦略委員会代表 国立大学法人九州大学 男女共同参画推進室 教授 上瀧 恵里子氏

#### B賞(奨励賞)

大阪府立大学 理系女子大学院生チーム IRIS 代表

公立大学法人大阪府立大学大学院 工学研究科 博士後期課程2年 乙山 美紗恵氏

工学研究科 博士前期課程2年 永田 佑佳氏

生命環境科学研究科 博士前期課程2年 中嶋 優里氏

理学系研究科 博士前期課程2年 黒田 麻友氏

### 東北大学における男女共同参画の取り組みについて

総長特別補佐(共同参画担当)、男女共同参画委員会副委員長、  
男女共同参画推進センター 副センター長、医工学研究科/工学研究科 教授 田中 真美

休憩 (14:05 ~ 14:20)

## 第2部

14:20-15:10

### 特別講演

#### 民間企業の研究者から東京都議会議員へ ～自分なりの社会貢献を模索して～

東京都議会議員 福島 りえこ氏

座長：男女共同参画委員会副委員長、男女共同参画推進センター 副センター長、多元物質科学研究所 教授 永次 史

休憩 (15:10 ~ 15:25)

## 第3部

15:25-16:55

### パネルディスカッション

#### Dual Career Couple 今と未来の「共働き」を考える

パネリスト：

東京都議会議員 福島 りえこ氏

特定非営利活動法人ファザーリングジャパン東北 代表理事 横田 智史氏

東北大学 流体科学研究所 教授 伊賀 由佳氏

東北大学大学院 理学研究科 修士2年 森 真依子氏

東北大学 経済学部 4年 伊佐治 祐太氏

コーディネーター：男女共同参画委員会委員、広報・シンポジウムWG座長、医学系研究科 教授 山内 正憲

## 講評・閉会挨拶

男女共同参画委員会 委員長 大隅 典子 16:55

## 閉会

17:00

# 来賓

国立大学法人  
お茶の水女子大学 学長  
**室伏 きみ子氏**

## 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞 歴代受賞者

第1回 (平成26年度)	A賞	日本の男女共同参画社会の推進を牽引する先導的活動について 明治大学法科大学院 教授 辻村みよ子氏
	B賞	サイエンス・エンジェル修了生を中心とした有志団体による男女共同参画への取組み SA輝友会 (エスエーきゆうかい)
第2回 (平成27年度)	A賞	日本の理工系女性研究者支援を牽引した先導的活動 日本大学薬学部・薬学研究所 上席研究員 大坪久子氏
	B賞	“新大 Wits” による出前授業活動から生まれた男女共同参画多世代キャリア教育 新大 Wits (しんだいういつつ)
第3回 (平成28年度)	A賞	大学における男女共同参画推進事業のモデル化による国際的拠点化 名古屋大学男女共同参画室
	B賞	該当なし
第4回 (平成29年度)	A賞	科学技術とジェンダー：歴史と展望の探究 国立大学法人 三重大学 名誉教授 小川 眞里子氏
	B賞	看護学分野における若手男性研究者として男性のケアワーク参画を支援する先導的活動 国際医療福祉大学 成田看護学部 助教 古山 陽一氏

### A賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

東北大学内外に関わらず男女共同参画に関する研究や活動について、特段に優れた成果を挙げている個人又はグループ

### B賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

東北大学内外に関わらず男女共同参画に関する研究や活動について、顕著な成果を挙げている、あるいは顕著な活動を行っており、今後一層の成果や活躍が期待される若手（42歳以下）の個人又は若手で構成されるグループ



第4回澤柳記念賞授賞講演 A賞  
三重大学 名誉教授 小川眞里子氏



第4回澤柳記念賞授賞講演 B賞  
国際医療福祉大学 成田看護学部 助教 古山陽一氏

# 第5回「澤柳記念賞」

## 第5回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞審査結果及び講評

男女共同参画委員会 委員長 大隅 典子

本学では、平成15年度より10年間にわたり、東北大学における男女共同参画を推進するため、「東北大学男女共同参画奨励賞（通称：沢柳賞）」として、教職員及び学生の皆さんの男女共同参画に関連する研究や活動を奨励してきました。

平成26年、さらなる男女共同参画社会を目指し、沢柳賞を改め、「澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称：澤柳記念賞）」を創設しました。この賞は、アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰する目的で設置しました。これまでの沢柳賞と異なり、学内だけでなく学外からも広く公募することで、より多くの方へ男女共同参画推進の理念を広げたいと考えています。

名称は、東北大学の理念である「門戸開放」の方針を打ち出し、全国に先駆けて女子学生に帝国大学の門戸を開く素地を作った初代総長澤柳政太郎の功績にちなんでいます。澤柳記念賞は、本賞のほか、42歳以下の若手を奨励する目的で設置された奨励賞の2部門からなります。審査においては男女共同参画に関連する研究や活動の奨励、男女共同参画社会実現へ向けての積極的な提言や企画を重視しています。

厳正な審査により、以下のように受賞者が決まりましたので、審査の講評とあわせてご報告いたします。

### 第5回（平成30年度）澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

#### A賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

課題名 「女性枠設定による教員採用・養成システム」による先導的取組の推進とその成果

受賞者 九州大学研究戦略委員会

講評 同グループは、「女性枠設定による教員採用・養成システム」を導入し、女性研究者の増加と活躍促進、活躍可視化について先駆けて取り組んでいる。このシステムにより「女性枠システム」以外の女性教員採用の著しい増加も達成され、構成員の意識の変革に大きく貢献したものと認められる。また、「女性枠」設定の教員採用は文部科学省『科学技術人材育成費補助事業 女性研究者養成システム改革加速』中間・事後評価で極めて高い評価を得ており、国際会議などでも紹介され、学内外に広く波及効果をもたらしている。さらに、女性教員の論文業績の可視化も行われており、これについても国内外に注目されている。これらの功績は顕著なものであり、ここに顕彰する。

#### B賞：澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

課題名 理系女子大学院生チームIRIS(アイリス)による地域における理系進路支援の取り組み

受賞者 大阪府立大学 理系女子大学院生チームIRIS

講評 同グループは、西日本では初めて女子大学院生が中心となって、企画から運営まで主体的に様々な活動に取り組み、長期にわたり地域に根付いた理系進路支援に関する活動を行っている。進路選択について考える機会を継続して提供していること、また活動が年々活発化していることは高く評価できる。今後より一層の活躍が期待され、奨励賞として顕彰する。



## 第5回「澤柳記念賞」受賞講演



## 略歴

- 1983年 九州大学文学部史学科卒業
- 1983年 九州大学応用力学研究所事務補佐員
- 1984年 九州大学応用力学研究所技術補佐員  
(核融合炉開発研究プロジェクトに参画)
- 1986年 日立サービスエンジニアリング株式会社技術員
- 1988年 九州大学応用力学研究所教務員
- 1997年 九州大学応用力学研究所炉心理工学研究センター助手
- 1997年 博士(工学)の学位取得
- 1997年 九州大学応用力学研究所炉心理工学研究センター助教授
- 2003年～2015年 九州大学研究戦略企画室を兼任(大学全体の研究戦略、特に科研費を初めとする競争的外部資金獲得業務に携わる)
- 2007年 九州大学応用力学研究所高温プラズマ工学研究センター准教授
- 2009年 科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」研究部門受賞
- 2015年 現職

## A賞 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞

## 「女性枠設定による教員採用・養成システム」による先導的取組の推進とその成果

受賞者：九州大学研究戦略委員会

代表：九州大学 男女共同参画推進室 教授 上瀧 恵里子氏

## 講演要旨

## 「女性枠設定による教員採用・養成システム」とその成果

九州大学では2009年の文部科学省『女性研究者養成システム改革加速』事業の開始を契機に、戦略的人事制度の一つとして、女性を優遇するのではなく、長期的視野に立って機会を与えて優秀な人材を育てる「女性枠設定による教員採用・養成システム」を構築した。

2009年当時まだ事例の少なかった女性限定公募ではあるが、より優秀な人材を国際公募で広く求め、部局間の競争による透明性の高い審査を実施した。部局の推薦を受けた候補者を審査する全学審査会では理事・副学長、部局長に加え、外部有識者も参加し、候補者のみならず部局の取組み・受入れ態勢も審査し、採用後の育成に繋げることとした。

本システムでは2009年～2017年の間に理学、工学、農学、人文、経済、薬学分野で48人の女性教員(教授7、准教授25、講師2、助教14)を採用した。採用教員の活躍ぶりは外部資金の獲得や各賞の受賞状況でも顕著であり、優秀な女性を採用されたことで、通常人事でも女性の採用は増加し、女性教員数は2010年の204人から2015年の319人と5年で1.5倍に増加した。

2017年3月にエルゼビア社が男女別の論文業績分析を発表したのを機に九州大学でも同社の分析ツール「SciVal」を用いて同様の分析を行った。その結果、特に女性枠採用教員の業績が平均して充分高いことがデータとして明らかになった。この結果を全国規模のシンポジウム等で紹介したところ、国内外に大きなインパクトを与えた。

本システムは女性研究者の増加と活躍促進、活躍可視化に貢献する先導的取組みであった。本システムの構築と継続に尽力された諸先輩に改めて敬意を表したい。

## 主な活動・著書

2008年 文部科学省の『若手研究者の自立的な研究環境整備促進』、『女性研究者支援モデル育成』事業開始を契機にこれらの事業に携わる。九州大学の「次世代研究スーパースター養成プログラム」、「世界へ羽ばたけ!女性研究者プログラム」、「女性枠設定による教員採用・養成システム」を、そして現在は『ダイバシティ研究環境実現イニシアティブ』を担当する。

## 活動内容を紹介した主な講演等

「九州大学における研究マネジメント～次世代研究スーパースター養成プログラム(SSP)を中心に～」(文部科学省研究開発評価シンポジウム 2008年3月)

「競争的資金を活用した大学改革 女性研究者支援の推進」(日本化学会西日本大会 2009年11月)

「女性枠を設定した教員採用とその成果」物理科学雑誌パリティ, Vol. 28 No. 01 pp. 87-90, 2013.

「九州大学における多様な女性研究者支援と増加策」(第96回 日本生理学会大会 2018年3月)

## 第5回「澤柳記念賞」受賞講演

## B賞 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞

## 理系女子大学院生チームIRIS(アイリス)による地域における理系進路支援の取り組み

受賞者：大阪府立大学 理系女子大学院生チーム IRIS

代 表：大阪府立大学大学院 工学研究科 博士後期課程 2年 乙山 美紗恵氏  
 工学研究科 博士前期課程 2年 永田 佑佳氏  
 生命環境科学研究科 博士前期課程 2年 中嶋 優里氏  
 理学系研究科 博士前期課程 2年 黒田 麻友氏

## 講演要旨

## 公立ならではのネットワークを活かした地域と連携した取り組み

大阪府立大学理系女子大学院生チームIRISは、2011年女性研究者支援事業の一環として、研究や科学の楽しさや面白さを伝えたい理系女子大学院生を募集し、学長から任命を受けてスタートしました。男子学生が多い理工系分野の女子大学院生に活躍の場を提供することにより、理系女子大学院生を「見える化・魅せる化」するために結成されたもので、東北大学サイエンス・エンジェルに続く理系女子大学院生チームです。IRISという名称は「I'm a **R**esearcher **I**n **S**cience」の頭文字をとったもので、大学本部がある堺市の花にもちなんでいます。

IRISの活動の中心は「IRISサイエンス・キャンパス」です。これは小中学生を対象とした科学実験教室で、IRIS自身で企画から運営まで行っています。大阪府内の市町村の男女共同参画センター、小学校、子ども会などから依頼を受け、各場所に出張して開催しており、2011年から2017年までの7年間で61件実施し、のべ4,069人の子どもたちとその保護者が参加しました。

このIRISサイエンス・キャンパスを小中学生の身近な地域で実施することにより、IRISが理系女性のロールモデルとなって女子の理系進路選択の機会を提供しています。そして、IRIS自身にとっても、サイエンス・コミュニケーションやプレゼンテーションの腕をみがく場であり、地域の子どもたちやその保護者と直接触れ合える貴重な機会となっています。

本講演では、これまでのIRISの活動の内容と実績について報告します。

## 主な活動・著書

2011年大阪府立大学理系女子大学院生チームIRIS(アイリス)発足

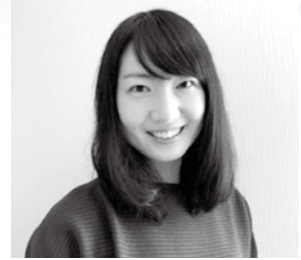
2018年はIRIS第8期生51名が活動中。

## 【主な活動】

■IRISサイエンス・キャンパス：大阪府内の自治体(男女共同参画センターなど)、小学校、子ども会等と連携して科学実験教室を実施している。

■めざせ！理系女子コーナー：オープンキャンパス時に、IRISが自身の研究内容や学生生活、進路選択の経験を女子中高生、受験生に紹介することで、理系進路選択の悩みや不安を解消したり、将来のビジョンを考えるために役立つ情報を提供する。

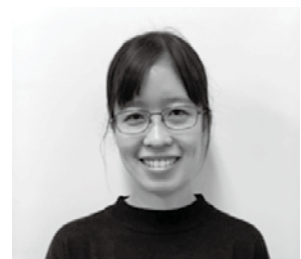
## 略歴



乙山 美紗恵  
大阪府立大学大学院工学研究科  
物質・化学系専攻応用化学分野  
博士後期課程 2年



永田 佑佳  
大阪府立大学大学院工学研究科  
物質・化学系専攻応用化学分野  
博士前期課程 2年



中嶋 優里  
大阪府立大学大学院生命環境科  
学研究科応用生命科学専攻  
応用生命科学分野  
博士前期課程 2年



黒田 麻友  
大阪府立大学大学院理学系研究  
科物理学専攻宇宙物理学分野  
博士前期課程 2年



# 東北大学における男女共同参画の 取り組みについて

総長特別補佐（共同参画担当）  
男女共同参画委員会副委員長  
男女共同参画推進センター 副センター長  
医工学研究科／工学研究科 教授

田中 真美

東北大学では、男女共同参画の実現に向けた委員会活動とともに、女性研究者がキャリアパスの障害を乗り越えるための支援として、平成18-20年度に「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者支援モデル育成）、平成21-25年度に「杜の都ジャンプアップ事業for 2013」（文部科学省科学技術振興調整費：女性研究者養成システム改革加速事業、現科学技術人材育成費補助金）を実施してきた。こうした経緯を経て、現在は平成28年度から採択された「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」（科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」）を実施している。この事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や、研究力向上のための取組、および上位職への積極採用に向けた取組を支援するものである。

「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」の目標を実現すべく、2017年度から「東北大学女性教員採用促進事業」を実施している。この事業は、（1-1）部局と全学の連携による女性教員採用促進策「部局公募型」、（1-2）「国際公募型」、（2）ポストアップによる女性研究者の上位職移行策、（3）各部局の特性を生かした努力に対する促進策の4種類で構成され、優秀な女性研究者を採用・登用し、長期に渡り安定かつ自立して研究を実施できる環境を整えることを目的としている。この事業により2017年度は（1-1）と（1-2）の公募により9名の女性教員が採用、（2）により6名の教員がポストアップし、そのうち3名が教授に昇進した。また昨年度から、東北大学の「人文・社会科学」、「理学・工学」、「農学・生命科学」、「医歯薬学・保健」の4分野から各1名に贈賞する東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」も開始し、世界トップリーダーとなるような女性研究者の育成を行っている。

2018年4月に青葉山みどり保育園（最大定員100名）と、星陵地区用の星の子保育園（最大定員120名）が開園、既にある川内けやき保育園（最大定員30名）と合わせて全国の国立大学の事業所内保育施設として最大規模の保育環境が整った。また、役員等（総長、理事、副学長、総長補佐、副理事、総長特別補佐）での女性比率が2018年度に11.1%となり、本学初の副学長も誕生している。これら様々な取り組みや成果を、学内外により一層伝えるために動画を作成し、配信している。こうした取組を通し、今後も一層、男女共同参画の推進を図っていく。



第1回紫千代萩賞の受賞者と里見前総長



動画表紙 中央は青葉山みどり保育園で園児を抱っこする大野総長



# 特別講演

## 民間企業の研究者から東京都議会議員へ ～自分なりの社会貢献を模索して～

東京都議会議員 福島 りえこ氏

### 講演要旨

ひとつ下の弟と分け隔てなく育てられたこともあり、子供のころは、「女のくせに」とよく言われました。小学校の時間割にあった「理」の一字。「女の子は数学が苦手」と聞いた時に感じた反発心。進路を理系に決めたのは、科目として好きだっただけでなく、従来の「女子」や「女性」の枠にはまりたくない、という気持ちも大きかったように思います。

振り返ってみれば、背伸びをし続けてきました。成績に余裕はありませんでしたが大学院進学を選び、民間企業の研究所を目指しました。初めて立ち止まって自分がやりたいことを考えたのは、産休に入った時。自ら進む方向を決められる「研究開発」という仕事に就いている幸せを改めて認識したことで、前向きに仕事に取り組むようになりました。

復職後に加わった眼鏡を使わなくても見られる（裸眼）3Dテレビの開発では、仲間にも恵まれて、結果を出すことができました。製品化、そして数々の受賞につながった特許を思いついたときのことは良く覚えています。裸眼3Dテレビは、その構造上、見える範囲（視野）が限られているのですが、今の設計は十分性能を出せていないのではないかと…。子供を迎えに帰る道すがら考えようと課題を手帳に書き留めた時には、既にワクワクしていました。

東芝の研究開発センターのミッションが5～10年先の製品開発だったこともあり、22年間在籍するなかで手がけた研究はたったの3つ。いずれもそれなりの形にまとまり、そのうちのひとつである裸眼3Dテレビに至っては、世界初の製品化まで経験できました。これまでの経験を活かして、女性の社会進出の支援や少子高齢化などの社会課題解決に取り組みたいと思っていたところ、小池都知事が2016年の知事選で圧勝。将来世代に課題を先送りする政治を変えられるのではないかと…議員になることを考えたのは、この時です。

議員になってからの日々は、想像していたものと全く異なりました。苦労がないわけではありませんが、一番の宝物は、将来への責任を果たしたいという想いで議員になった同志に恵まれていることです。都議会議員になって1年半。十分な結果を出しているとはいえませんが、結果の出方はわかってきました。「東京大改革」の実現に向けて、日々努力しています。

### 主な活動・著書

1995年に(株)東芝に入社、研究開発センターに配属。1999年に結婚、2001年に一児を出産。8ヶ月の子供を保育園に預けて2002年に復職。行政(保育園)、地域(ママ友)、家族(夫、両親)、職場(上司、同僚)の協力を得ながら、育児と仕事を両立。

育児と両立するために必然的に限られた勤務時間の中で、自分ならではの成果を出すことに注力、出産前より高い業務評価を受けられるようになる。2003～2006年に応用物理学会男女共同参画委員会委員を務め、会社の制度が整っていたからこそ結果を出せたことを理解、男女共同参画を推進する意義に気づく。

復職直後から研究開発に参画、量産構造の検討チームのリーダーを務めるなどした、眼鏡をかけなくても見られる3D液晶テレビを、2010年に世界初で製品化に成功。関連して、発明協会/全国発明表彰21世紀発明賞(第二表彰区分)、ウーマン・オブ・ザ・イヤー2011/大賞など多数受賞。仕事と育児の両立について、講演・取材を多数受ける。

2011～2015年に電気通信大学非常勤講師、2014～2016年に文部科学省 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業評価委員を務めるなど、後輩の育成や環境整備にも尽力。

"Novel viewing zone control method for computer-generated integral 3-D imaging", Proc. SPIE 5291, Stereoscopic Displays and Virtual Reality Systems XI, (21 May 2004)、特許第3892808号、他多数。



### 略歴

- 1993年 東北大学理学部化学第二学科卒業
- 1995年 東北大学大学院理学研究科化学専攻修了
- 1995年 (株)東芝入社、研究開発センター配属
- 2005年 (株)東芝 研究開発センター 材料・デバイス研究所 主任研究員
- 2005年 第57回神奈川県発明考察展覧会/川崎市長賞
- 2005年 日本光学会/光設計優秀賞
- 2007年 (株)東芝 研究開発センター ヒューマンセントリックラボラトリー 主任研究員
- 2007年 映像情報メディア学会/技術振興賞 開発賞
- 2010年 発明協会/全国発明表彰 21世紀発明賞(第二表彰区分)
- 2011年 ウーマン・オブ・ザ・イヤー 2011/大賞
- 2012年 (株)東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー 研究主幹
- 2013年 日本液晶学会賞/業績賞(開発部門)
- 2015年 (株)東芝 研究開発センター 研究企画部 エコテクノロジー推進担当 グループ長
- 2017年 東京都議会議員選挙 都民ファーストの会 公認候補予定者 決定(八次) 世田谷区で70,471票を集め、トップ当選
- 2017年 総務委員会委員、東京都議会日中友好議員連盟理事、東京都消費生活対策審議会委員、(公財)東京都歴史文化財団評議員
- 2018年 文教委員会委員、東京都議会日中友好議員連盟理事、東京都消費生活対策審議会委員、東京都男女平等参画審議会委員

# パネルディスカッション



## 略歴

- 2015年 株式会社ペンギンエデュケーション 代表取締役 就任
- 2015年 NPO 法人ファザーリングジャパン東北 代表理事 就任
- 2016年 ペンギンインターナショナルスクール 設立
- 2018年 NPO 法人ファザーリングジャパン 理事 就任

## 今と未来の「共働き」を考える

パネリスト：特定非営利活動法人ファザーリングジャパン東北 代表理事 **横田 智史氏**

### 講演要旨

#### 人生100年時代に考えるこれからの生き方

「100年ライフと言われるこれからの時代にどう生きていくか」を仕事と私生活の両面から考える。また、少子化社会の大きな要因でもある日本の男性の育児や家事参画について諸外国との比較から学んだり、参画時間が少ない要因を考えたりする。

我が国で特に問題となっている（特に）男性の長時間労働を是正し、仕事と家庭の調和（ワークライフバランス）を手法として捉え、実践していくことが求められていることから、その効果性を仕事と子育ての経験から伝えていきたいと思う。

「ワークライフバランス」はよく理解しないと名前のままバランスをとることでないと認識してしまうと誤解を生むこともあることから、ワークライフバランスとは仕事と家庭（ライフ）の相乗効果であることも説明し、何のために取り組んでいくのか「目的」を明確にすることから取り組みスタートしていくことが必要である。

仕事と育児だけではなく、今後、介護を視野に入れていくと、子育てを終えた方や「自分は子育てに関係ない」と思っている方でも親の介護問題がある。そのため、性別は関係なしに、時間に対して制約が出てくる働き方にシフトしていくことが求められている。

これまでは多くの女性が時間に制約を持ちながら働いてきた。保育園のお迎え、夕食の支度、お風呂洗いや洗濯物、翌日の子どもの保育園や幼稚園の準備等、仕事以外にも家事育児にかかっている分量と時間は相当なものである。しかし、多くの男性は仕事のみで生活してきていることが多いことから、これまでの役割分業意識を変えていかなければならない。

それだけではなく、多くの男性には「家事や育児、仕事以外の活動が仕事にも役立つこと」「仕事のスキルアップにも繋がること」に気付いてほしいと思う。仕事に考える発想やアイデアだけではなく、仕事以外のところでインプットしたことが仕事に役立つことが大いにある。

さらには、今後人生100年ライフを迎えるにあたり、これまでの仕事のみで定年退職を迎え、その後の半生をどう生きていくかを本気で考えなくてはならない時期にきている。人生＝仕事で終わることが良しとするならば、それは会社に勤めている半生のことであることを自分事として捉え、考える機会としたい。

### 主な活動・著書

【活動】○福島県男女共同参画審議会委員

○福島市男女共同参画審議会委員 副会長

○福島県郡山市男女共同参画 さんかく教室 講師

【著書】感動笑顔～すべては子どもたちの笑顔のために～文芸社

#### 【講演実績】

・イクボスのすすめ～ワークライフバランス～（青森銀行）

・暮らしをより楽しくするためのワークライフバランス戦略（福島県桑折町）

・働き方生き方を変えるワークライフバランス～イクメンのすすめ（福島県原町労働連合会）

・教職員のワークライフバランス（宮城県岩沼市）

・女性活躍推進と地域づくり（福島県 中央女性アカデミー協会）

・ワークライフバランスのすすめ～すべては子どもたちの笑顔のために～（山形県中山町） 他、年間約 60 本の講演

# パネルディスカッション

## 今と未来の「共働き」を考える

パネリスト：東北大学流体科学研究所 教授 伊賀 由佳氏

### 講演要旨

#### 研究者のワークライフバランス

4人の男の子のお母さんで、主人は結婚当初より東京でサラリーマンをしているので、1人で4人の子育てをしながら大学の教員をしています。そんな生活が可能なのも、私がちょうど1人目を出産した年に東北大学の本格的な子育て支援が始まり、出張のときはベビーシッターさん、子供が熱を出した時は病後児保育室、単純なデータ処理は技術補佐員さんと、必要な支援が大学から受けられたからだと思っています。東北大学のこの手厚い支援が無ければ、ここまで続けられなかったかもしれません。また、ちょうどこの時代に生まれて私は本当にラッキーだったなと思っています。

よくある質問で「今の自分は何点ですか？」と聞かれた時は、プライベート100点、仕事50点、平均で75点と答えます。子供たちがどう思っているかわかりませんが、私は家事育児を結構楽しんでいて、日々幸せを感じています。プライベートも仕事も楽しむためには、家事育児の理想は低く、研究の理想は高く、が私のモットーです。

最近では、私よりも少し若い世代の男性は、子育てに積極的に参加しているように感じています。保育園の送迎を見ても、お父さんが半数ほどです。共働き家庭が増えてきて、また、イクメンという言葉もよく耳に入り、男性が家事育児に参加するのは当たり前、という意識改革が若い世代に浸透してきているのではないのでしょうか。私の研究室でも、私がいつも夕方には帰宅し、夕方以降にはゼミも会議も入れないので、30代の子育て世代の男性スタッフたちも、安心してお子さんの送迎を担当できているようです。また、お子さんが熱を出した時は気兼ねなく休暇を取っているようです。その点で、「上司が女性で良かった」と感じてもらえているのではないかと、ひそかに思っています。今後ますます共働き家庭が増え、それぞれの職場に女性が増えることによって、男性も女性も働きやすい社会になっていくのではないかなと期待しています。

### 主な活動・著書

#### 【男女共同参画に関する活動】

日本流体力学会 男女共同参画委員会 委員

日本機械学会 男女共同参画委員会(LAJ委員会) 委員



### 略歴

- 1998年 東北大学工学部（機械知能工学科）卒業
- 2000年 東北大学大学院工学研究科博士課程前期2年課程（航空宇宙工学専攻）修了
- 2003年 東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年課程（航空宇宙工学専攻）修了
- 2003年 博士（工学）（東北大学）
- 2003年 東北大学教務補佐員（流体科学研究所）
- 2004年 東北大学助手（流体科学研究所）
- 2007年 東北大学助教（流体科学研究所）
- 2012年 東北大学准教授（流体科学研究所）
- 2018年 東北大学教授（流体科学研究所）  
付記
- 2003年～ 航空宇宙技術研究所 NAL 角田宇宙推進技術研究所
- 2004年～ 宇宙航空研究開発機構 JAXA 角田宇宙センター 非常勤研究員
- 2008年～ 宇宙航空研究開発機構 JAXA 角田宇宙センター 客員
- 2012年

# パネルディスカッション



## 略歴

2017年 東北大学 理学部  
化学科 卒業  
2017年 東北大学  
理学研究科  
化学専攻 入学

## 今と未来の「共働き」を考える

パネリスト：東北大学理学研究科 修士2年 森 真依子氏

### 講演要旨

#### 「誰でも無理なく」共働きできる社会を望む

私は、共働きに否やはありません。しかし、共働きに至るまでのハードルが高すぎるため、結果的に共働きそのものに消極的になっているというのが正直なところだと思います。

24歳、メーカー研究開発職内定、関東勤務予定、彼氏有。いつの間にか、仕事・家庭共に考えなければいけない年齢になっていました。

私は考えます。「彼氏は後3年は学生。仙台にいる彼がアカデミックに進むとしたら関東に来るのは難しそう。彼が就職したとして、近くに住めるかはわからない。じゃあ、新しい相手を探す？ だとしても自分が仕事を続けるとしたら、「転勤がなく、共働きに理解があり、家事育児を手伝ってくれる」男性でなければ不安がある。今は子育て制度が充実しているけれど、それも配偶者の理解や住環境に左右されるし…」

乗り越える問題(しかも私が制御できるものは少なく、外的要因が多すぎる問題)が山積みだと頭を抱えかけて、ハタと思ひ至ります。「仕事を辞めるか出産を諦めれば考えなくて済む話では？」そして冒頭に戻ります。

昔より制度も環境も良くなっていますが、それでも現状では、共働きは「可能ではある」けれど、「誰でも積極的にやりたい」ものではないと感じます。人生に関わる何かを選択する際に、全て「共働き」を前提に置かなければならないからです。その過程で犠牲にするものも多く、上記のような考えに悩まされて精神的・時間的余裕が擦り減ることが予想できます。甘えかもしれませんが、私の求める「誰でも共働きができる環境」は、そういったハードルがない環境のことです。

共働きと専業主婦のどちらがいいか、それを決められるほど今の私はしっかりした人生設計を持っているわけではありません。しかし、その二つのどちらかを選ぶべく時に、なるべく外的要因なしに自分の意志で選ぶことができる、そんな社会を望みます。

### 主な活動・著書

なし

# パネルディスカッション

## 今と未来の「共働き」を考える

パネリスト：東北大学経済学部 4年 伊佐治 祐太氏

### 講演要旨

#### 子育てから共働きを考える

近年働き方が多様化してきて、そのことは家族の在り方にも影響を与えている。専業主婦だけでなく専業主“夫”という言葉が出てきたり、もちろん共働きも一般的になってきた。近年の若者はその働き方どれにも柔軟な姿勢であって、もちろん私も自分の将来の妻が働きたいというなら共働きをしていくことには肯定的である。ただ、私は専業主婦家庭で育ったこともあり、自分が共働きをしている姿は想像しにくい。特に、この前まで子供側だったこともあり、将来の子供が共働き夫婦のもとでどう感じるかは非常に不安に思っている。そこで私の経験をもとにした理想の共働きは、“子供の帰りを家で待っていてくれる人がいる”ことである。昔では子供の世話は親だったり血縁関係者、地縁関係者が担当していたが、今の現状ではそのどれもが難しくなっている。そこで4番目の選択肢としてキッズシッターなどの契約関係者に子供の世話を頼むケースが増えてきていて、これは若者も賛成者が多い。ただ、このように状況が昔と変わってきても、私は親が家にいてあげるのが一番だと考えている。もちろん親が働きながら家にいるというのは大変難しく、最近ではそれを実現するために様々な施策があるものの、いまだに課題は多くこれからも考え続けていく必要がある。

### 主な活動・著書

NPO 法人アスイクでのボランティア活動

NPO の持続可能性についての調査



### 略歴

2014年 東北大学 経済学部  
入学

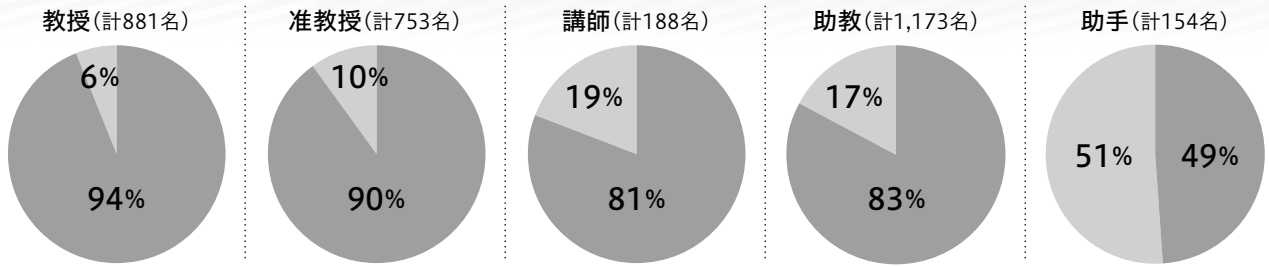
2016年 スウェーデン  
ウーメオ大学に交換  
留学

# 東北大学における男女構成比と推移

平成30年5月1日現在

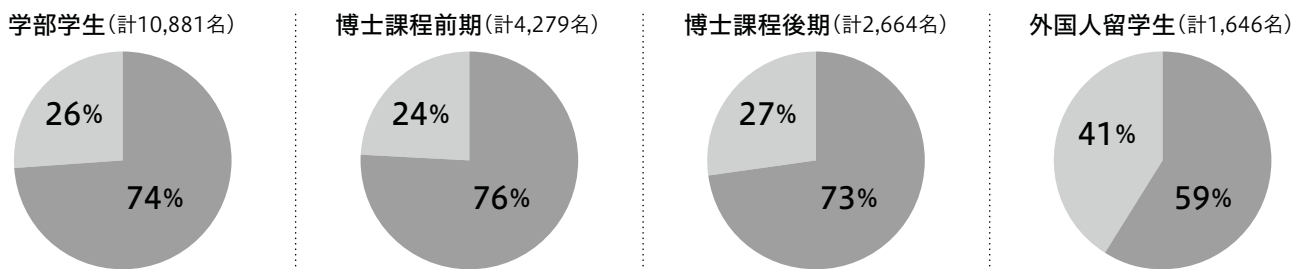
## 教員男女構成比

■ 男性 ■ 女性



## 学生男女構成比

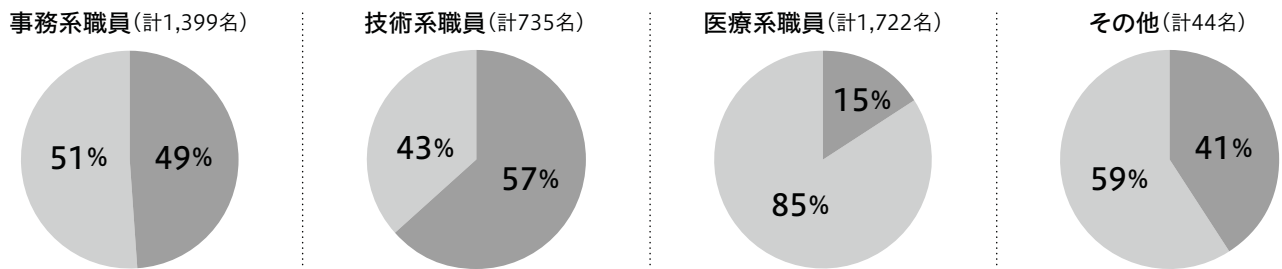
■ 男性 ■ 女性



※外国人留学生の数は学部学生・博士課程の内数

## 職員男女構成比

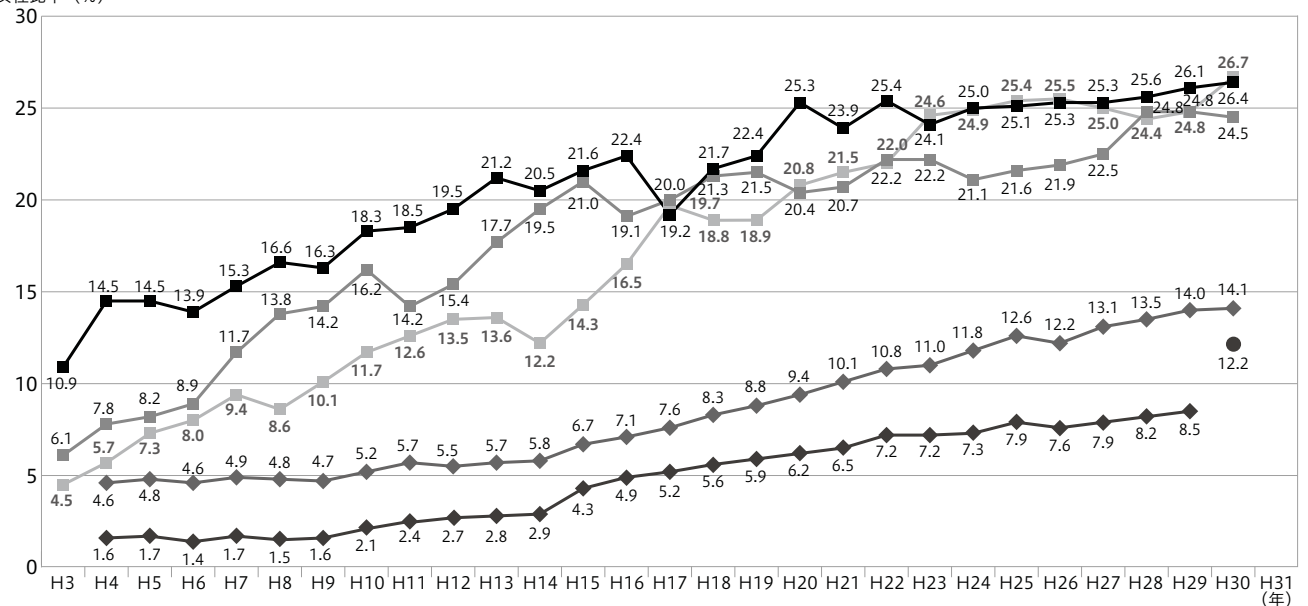
■ 男性 ■ 女性



## 学生男女構成比

■ 学生 ■ 修士 ■ 博士 ◆ 教員(助教・助手含む) ◆ 教員(助教・助手除く)(※H29まで) ● 教員(助手除く)(※H30から)

女性比率 (%)





# 東北大学における 男女共同参画推進のための行動指針

東北大学は、1913年に日本で初めて女子学生3名の入学を許可した。その3名はやがて女性初の学士になるなど、本学は女性研究者育成の歴史に大きな足跡を残している。そのような歴史の中、戦前にあっては学問を志す全国の女性が「学都仙台」に集い、本学は帝国大学の中で最も多くの女子学生を輩出した。

そして、2001年に全国に先駆けて東北大学男女共同参画委員会を発足させ、「男女共同参画のための東北大学宣言」（2002年）のもと、全学的な男女共同参画の推進に向けた活動として、学内の環境整備や意識改革、学内外広報等に努めてきた。

また、2003年度に21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」が、2008年度にはその成果を発展させたグローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が採択された。これらは、男女共同参画とダイバーシティ研究・教育のためのプログラムであり、研究・教育における男女共同参画の取り組みも全国に先駆けて進めている。

自然科学系分野では、2006年度から「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」を展開し、環境整備や次世代育成等に取り組むとともに、2009年度からは「杜の都ジャンプアップ事業for 2013」により、理工農学分野の女性研究者の採用を促進し、そのリーダー育成を推進している。

このように、男女共同参画の包括的推進（理論整備・活動支援）において、我が国をリードする活動を展開している本学は、女子学生入学100年の歴史と背景のもとに、建学以来の理念の一つである「門戸開放」を継承する男女共同参画について、今後10年間の行動指針として以下の7項目を策定する。

## ■両立支援・環境整備

本学構成員が、年齢性別等を問わず、仕事や学業と生活との両立を図ることができるように、意識の醸成に努め、子育て支援のための学内施設の充実や介護支援を含めた制度等の環境整備と周知を進める。

## ■女性リーダー育成

アカデミアにおける男女共同参画の推進に向けて、女性研究者を積極的に採用・養成し、さらに学内および学会・社会のリーダーとして飛躍させるための支援・登用制度を整備する。

## ■次世代育成

将来性豊かな次世代女性研究者を輩出するために、サイエンス・エンジェル（SA）活動を継続・発展することなどにより、学部生・大学院生を対象とした研究者使命の意識啓発と醸成に努め、さらに実体験を通して育成する施策を推進する。

## ■顕彰制度

アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰するため、新たな「東北大学男女共同参画賞」を創設する。

## ■地域連携

東北地方の中心に位置する大学として、東北地方の多くの大学、行政機関等との連携を進め、地域発展や震災復興事業等における男女共同参画を推進する。

## ■国際化対応

ワールドクラスへの飛躍に向けて、グローバルな研究・教育体制に相応しい、外国人研究者・留学生を対象とした様々な両立支援策を講じ、国際的観点に基づいて学内の男女共同参画を推進する。

## ■支援推進体制

上記の男女共同参画活動を円滑に推進するために、男女共同参画担当理事（若しくは副学長）と総長特別補佐（男女共同参画担当）を置き、さらに「男女共同参画推進センター（仮称）」などの恒常的支援体制を整備する。

平成25年8月8日